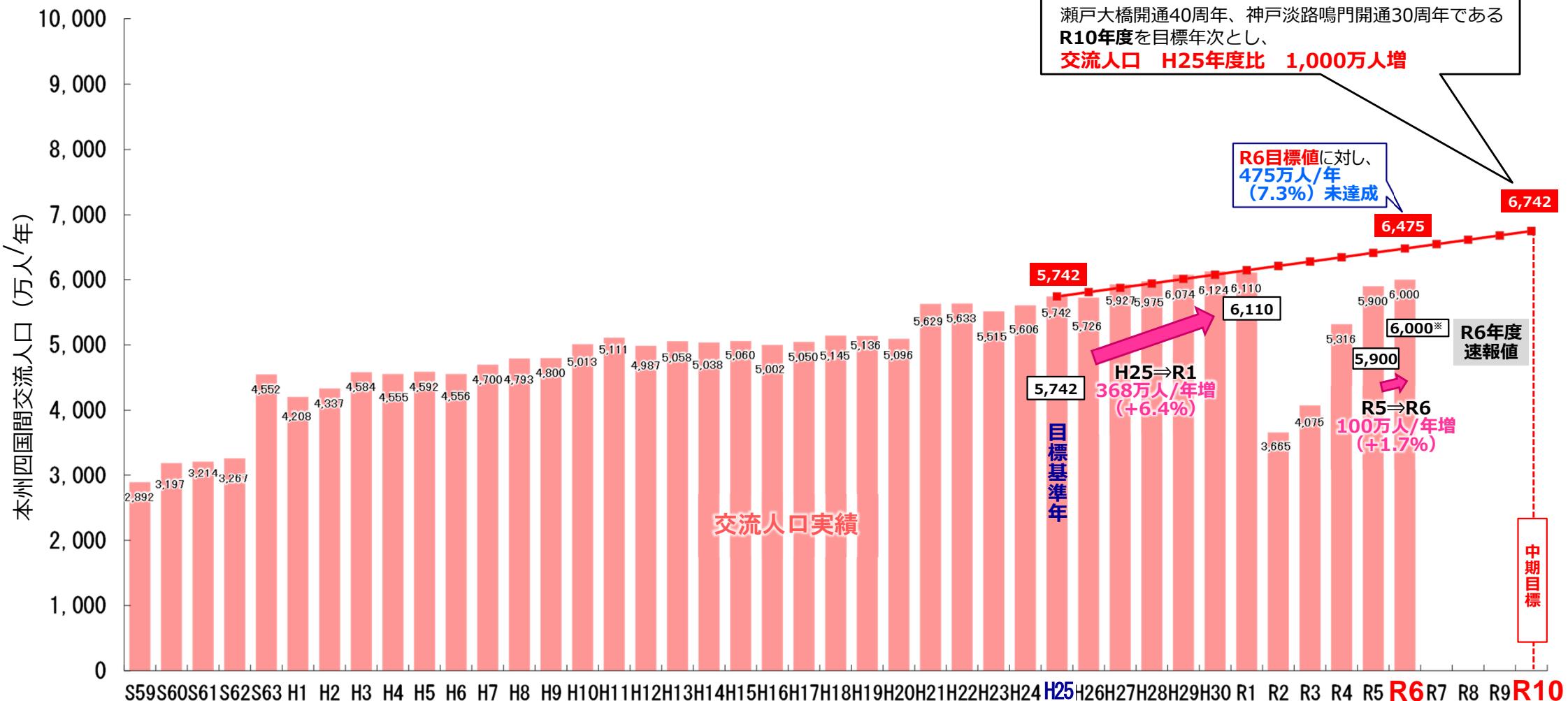


○R6年度速報値※は、R5年度比 **100万人/年（約2%）増**、目標値6,475万人／年に対し、
475万人/年（約7%）未達成となっている

●交流人口の実績の推移



出典) 本州四国連絡高速道路(株)資料、四国運輸局「業務要覧」
より作成

注: R6年度の交流人口は、推計速報値であり、今後公表されるデータを用いて更新。(令和7年9月時点)

※: R6年度の交流人口の内、鉄道は実績値。

1. 自動車(大鳴門橋・瀬戸大橋・多々羅大橋)は、高速バスのみ1年遅れで実績値が出るため、R6年度4月～3月の1年間分が推計値で、以下の方法を用いて算出。

R6年度の高速バス便数×R5年度の高速バスの平均乗車人数実績値(乗車人数/便数)=推計交流人口

2. フェリーは、1年遅れで実績値が出るため、R5年度の実績値を採用。

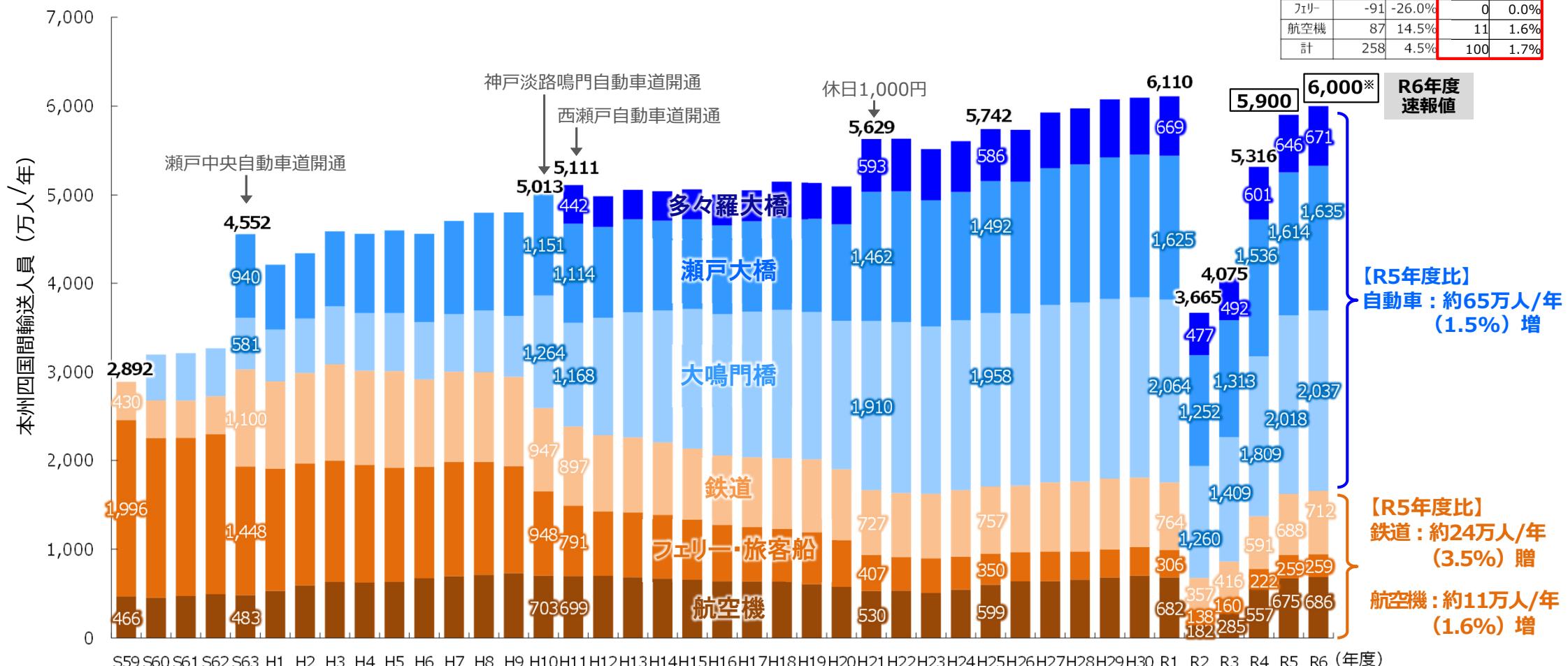
3. 航空機は、1年遅れで実績値が出るため、R6年度4月～3月の1年間分が推計値で、以下の方法を用いて算出。

(R5年度旅客地域流动調査データ/R5年度四国における運輸の動きデータ) × R6年度大阪航空局提供データ=推計交流人口

○R6年度速報値※は、R5年度比 **自動車：65万人/年（約2%）増、鉄道：24万人/年（約4%）増、航空機：11万人/年（約2%）増**となっている

●交通機関別の本州四国間輸送人員の推移

交通機関	R6比H25		R6比R5	
	増減数	増減率	増減数	増減率
自動車	307	7.6%	65	1.5%
鉄道	-45	-5.9%	24	3.5%
フェリー	-91	-26.0%	0	0.0%
航空機	87	14.5%	11	1.6%
計	258	4.5%	100	1.7%



出典：本州四国連絡高速道路(株)資料、四国運輸局「業務要覧」

より作成

注1：瀬戸大橋開通（1988年4月）以前の鉄道の輸送人員は、宇高連絡船の利用客。開通後は、JR瀬戸大橋線の輸送人員。

注2：大鳴門橋、瀬戸大橋、多々羅大橋はそれぞれ県境に架かる橋。

注3：R6年度の交流人口は、推計速報値であり、今後公表されるデータを用いて更新。（令和7年9月時点）

※：R6年度の交流人口の内、鉄道は実績値。

1. 自動車（大鳴門橋・瀬戸大橋・多々羅大橋）は、高速バスのみ1年遅れで実績値が出るため、R6年度4月～3月の1年間分が推計値で、以下の方法を用いて算出。
R6年度の高速バス便数×R5年度の高速バスの平均乗車人数実績値（乗車人数/便数）=推計交流人口

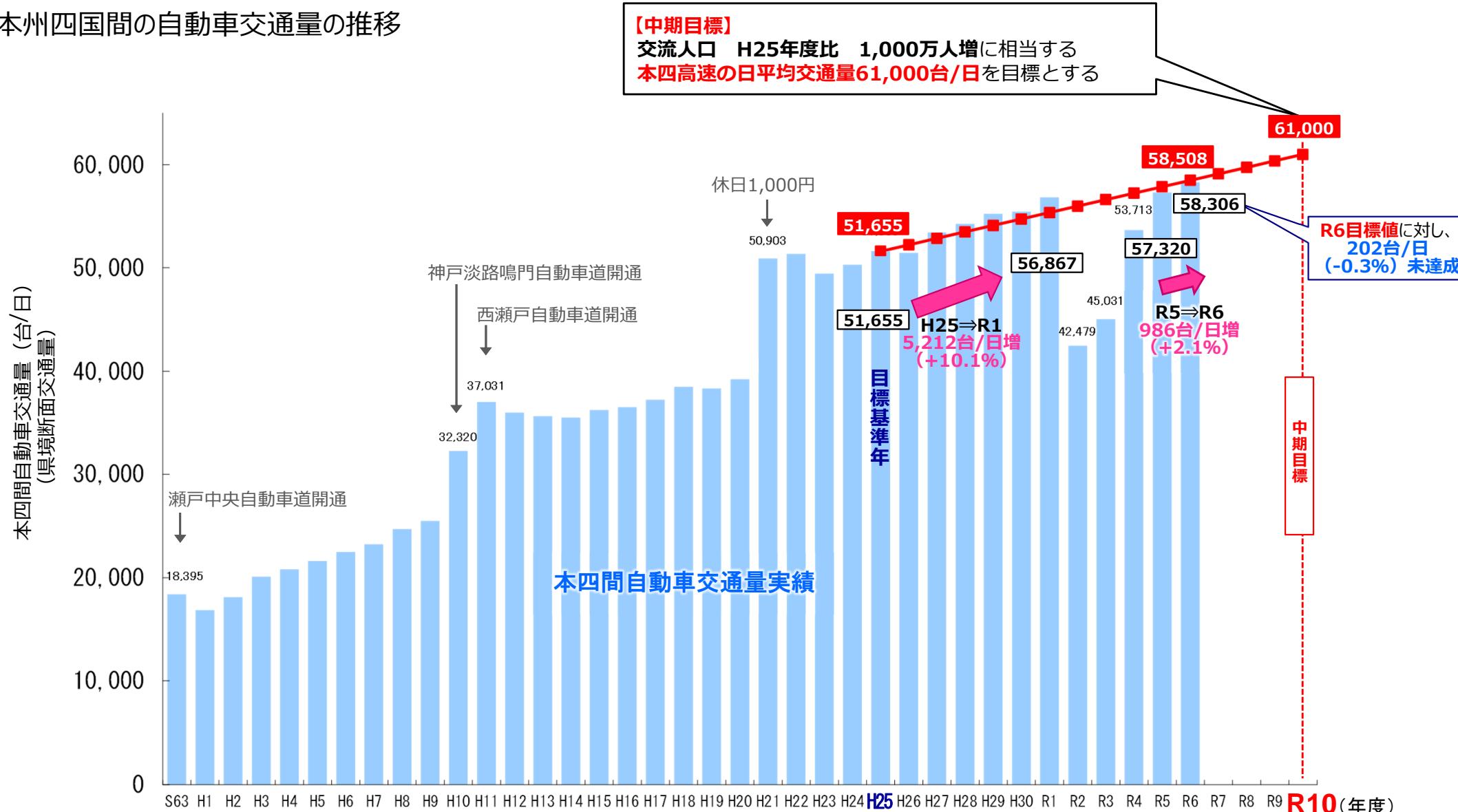
2. フェリーは、1年遅れで実績値が出るため、R5年度の実績値を採用。

3. 航空機は、1年遅れで実績値が出るため、R6年度4月～3月の1年間分が推計値で、以下の方法を用いて算出。

（R5年度旅客地域流動調査データ/R5年度四国における運輸の動きデータ）×R6年度大阪航空局提供データ=推計交流人口

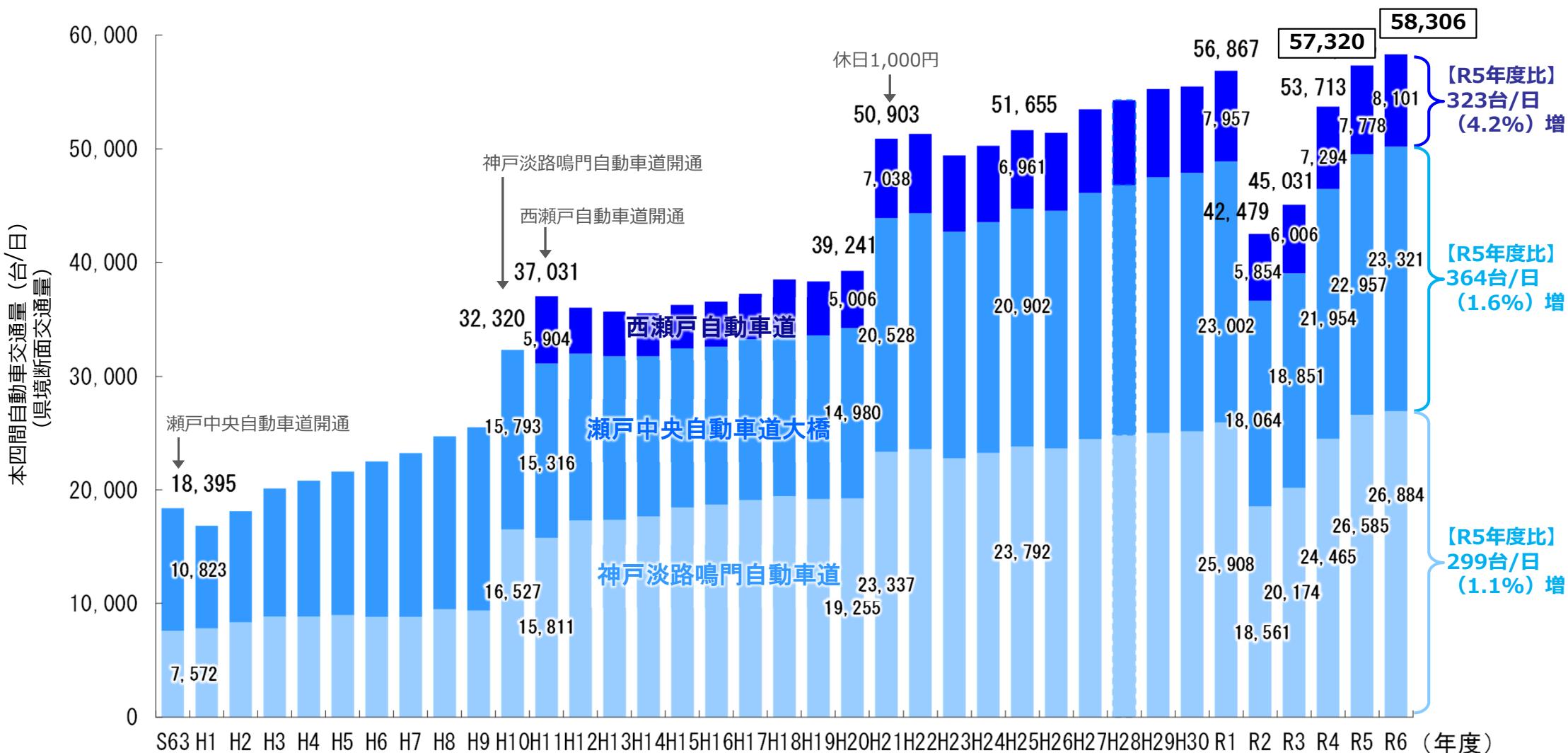
○R6年度実績は、R5年度比 **986台/日（約2%）増**、目標値58,508台/日に対し、
202台/日（約1%）未達成となっている

●本州四国間の自動車交通量の推移

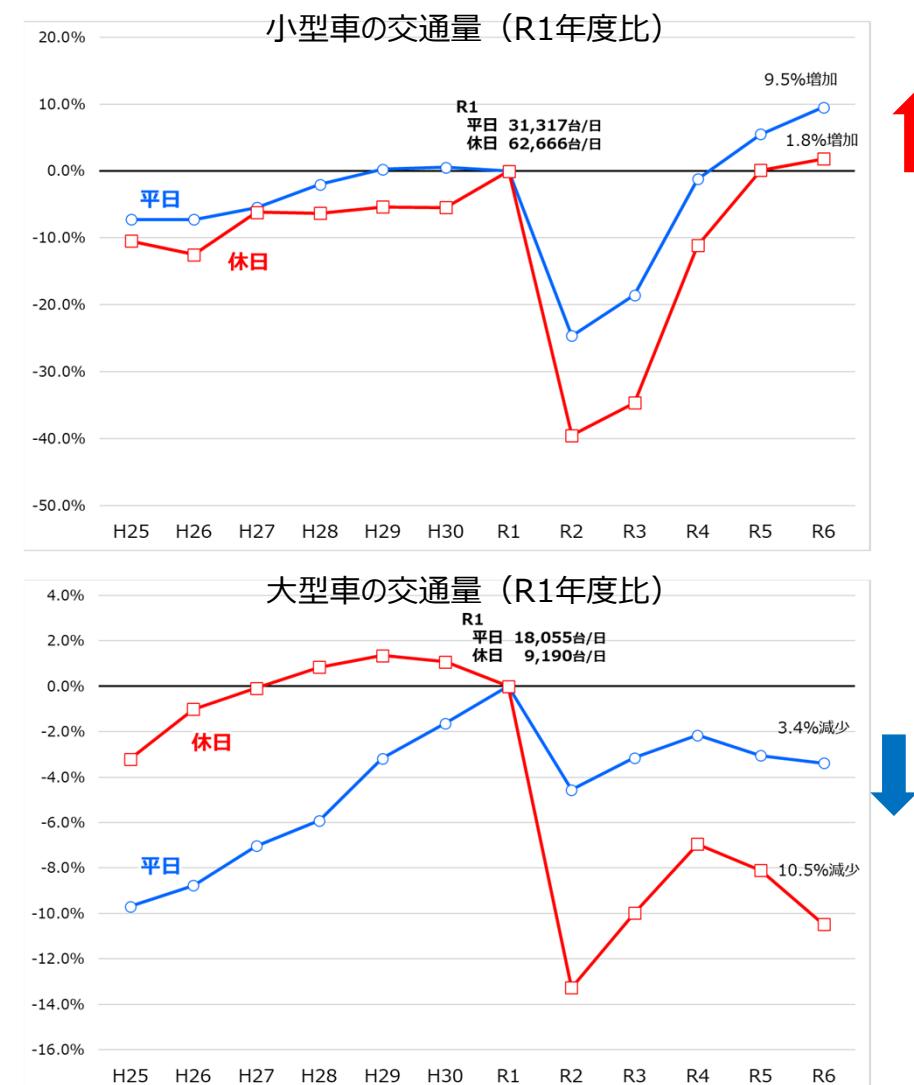
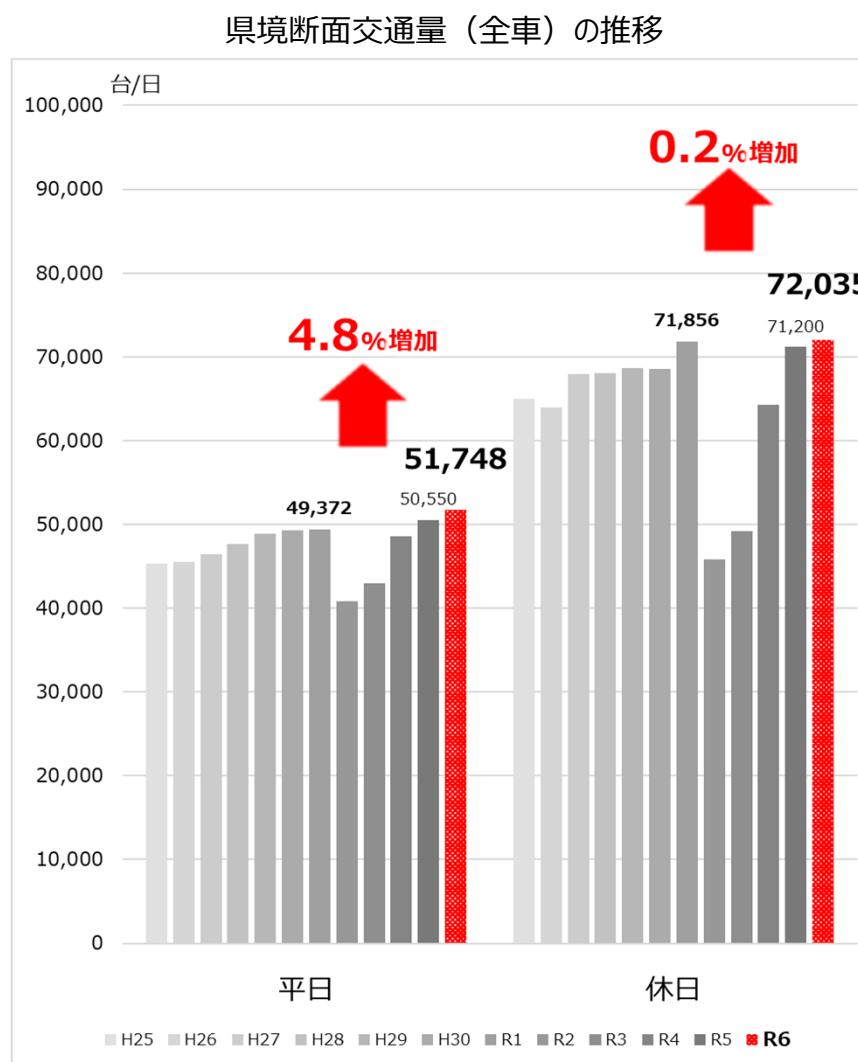


○R6年度実績は、R5年度比 神戸淡路鳴門自動車道：299台/日（約1%）増、瀬戸中央自動車道：364台/日（約2%）増、西瀬戸自動車道：323台/日（約4%）増となっている

●本州四国間の自動車交通量の推移

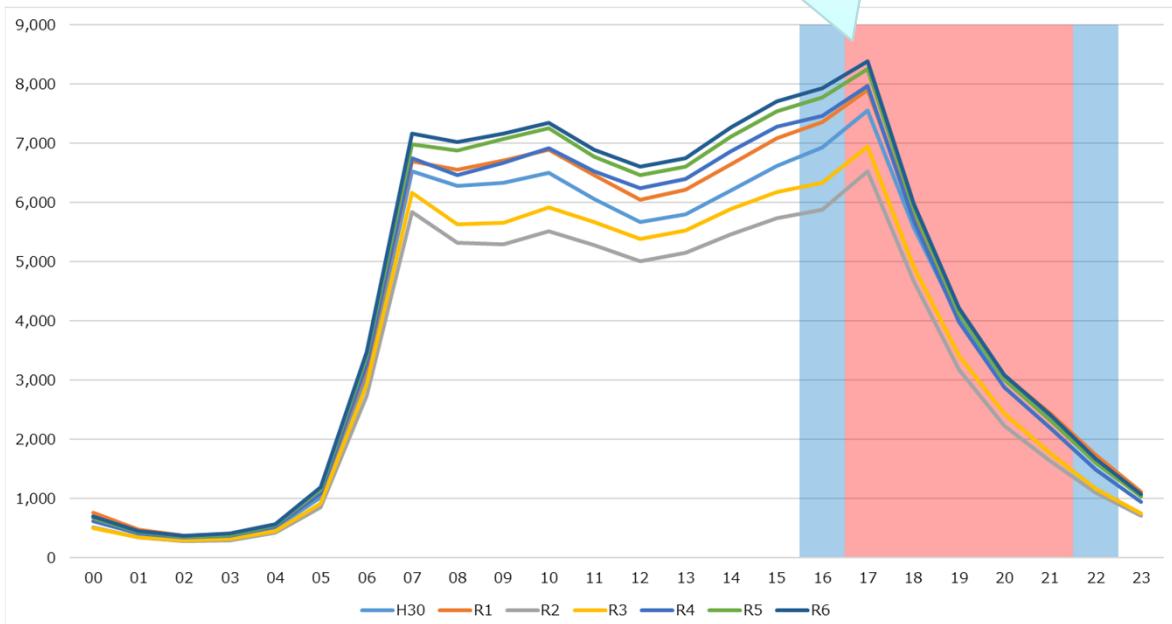


- 本四道路の県境断面交通量は、平日、休日ともにコロナ禍前の水準以上に回復
- 小型車は、R1年度と比較し、平日で9.5%、休日で1.8%の**増加**
- 大型車は、R1年度と比較し、平日で3.4%、休日で10.5%の**減少**
- 特に平日小型の伸びが顕著であり、平日における観光連携の強化は有効と考える



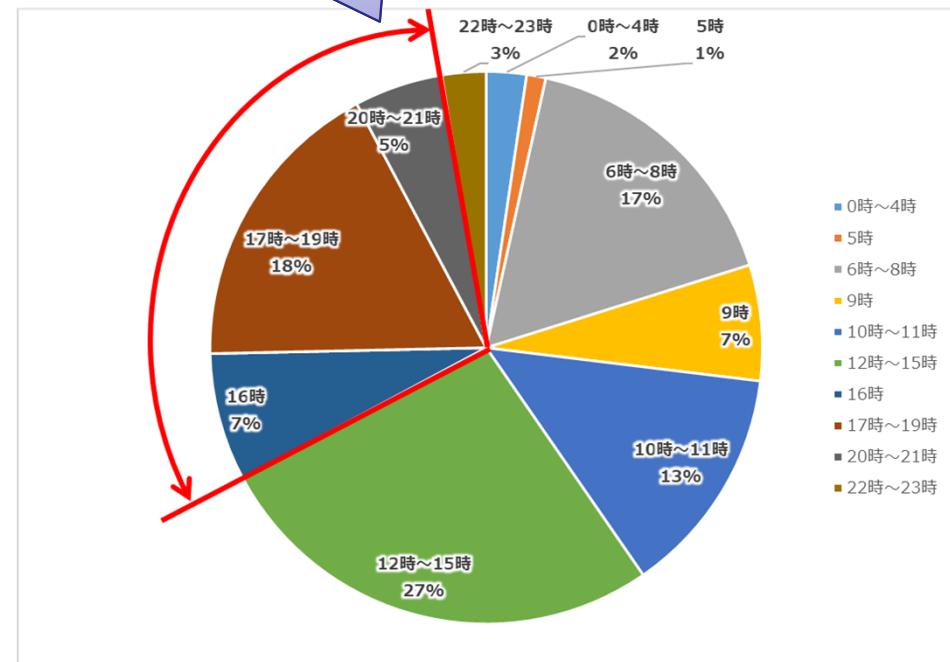
- 本四道路の時間帯別入口交通量の傾向は年度毎の変化が無く、17時がピーク
- 1日の時間帯別割合のうち、16時～22時が観光後の帰路時間帯と仮定
- 夜間観光の取組によるピークや時間帯別割合の変化を確認

いづれも17時がピーク

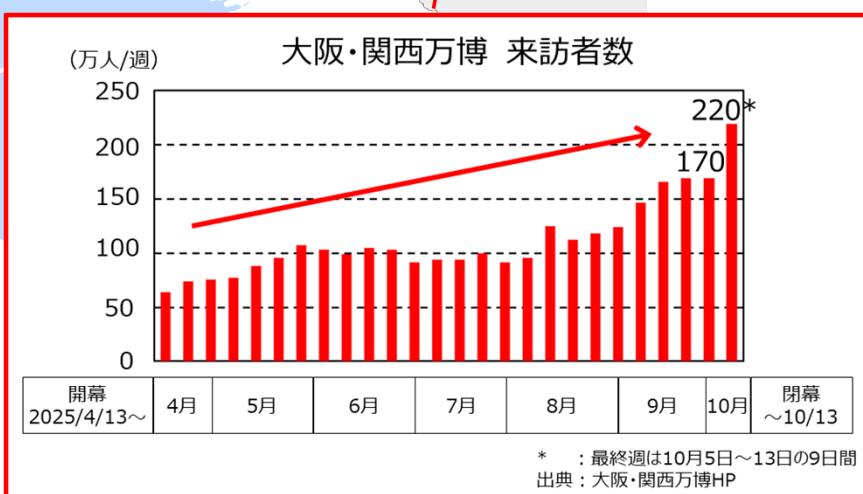
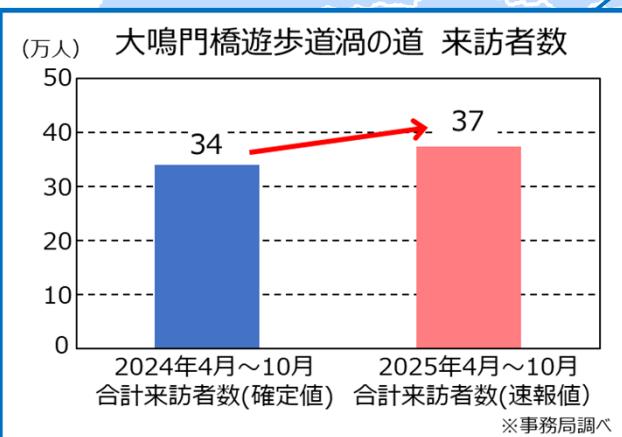
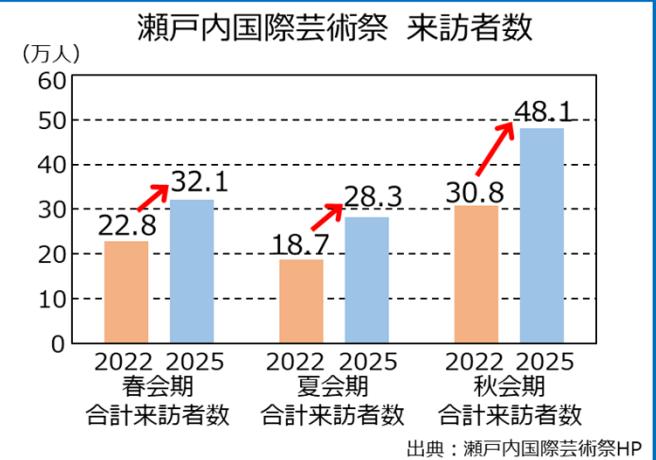
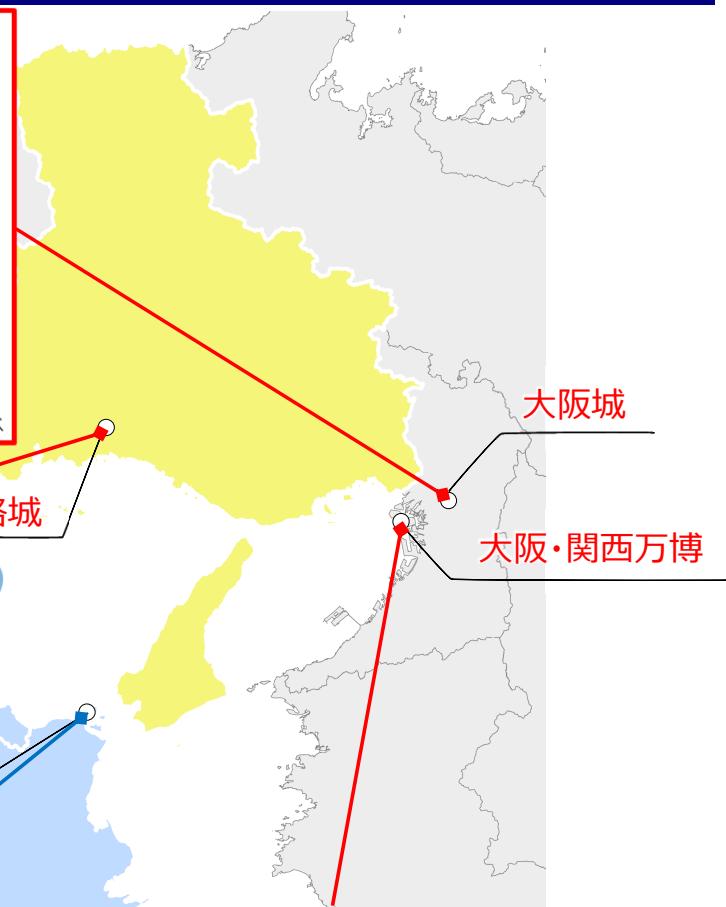
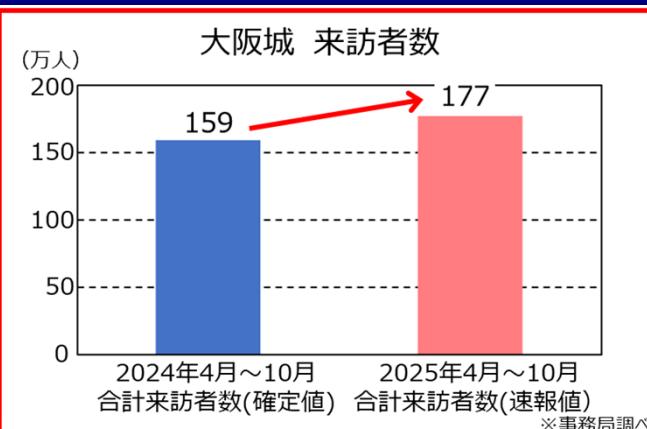
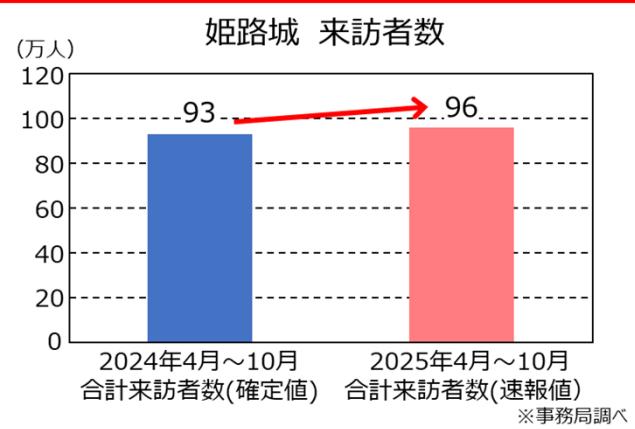


小型車の時間帯別入口交通量
(H30～R6)

帰路時間帯（16～22時）は約3割

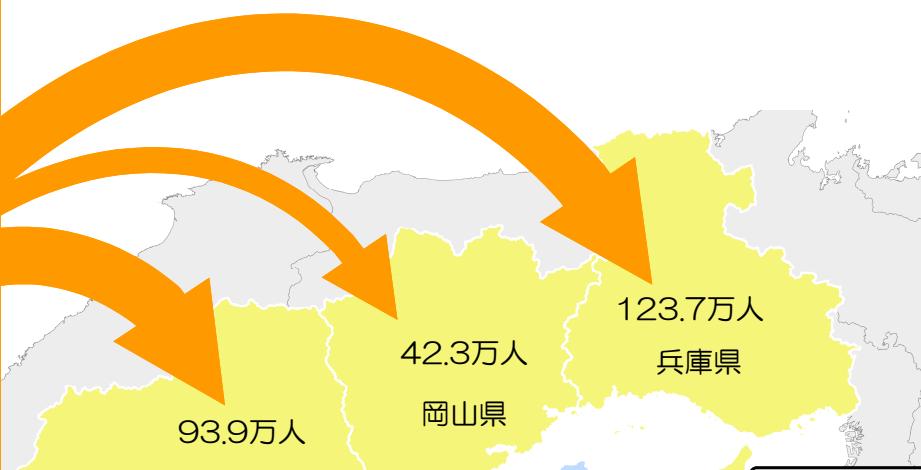
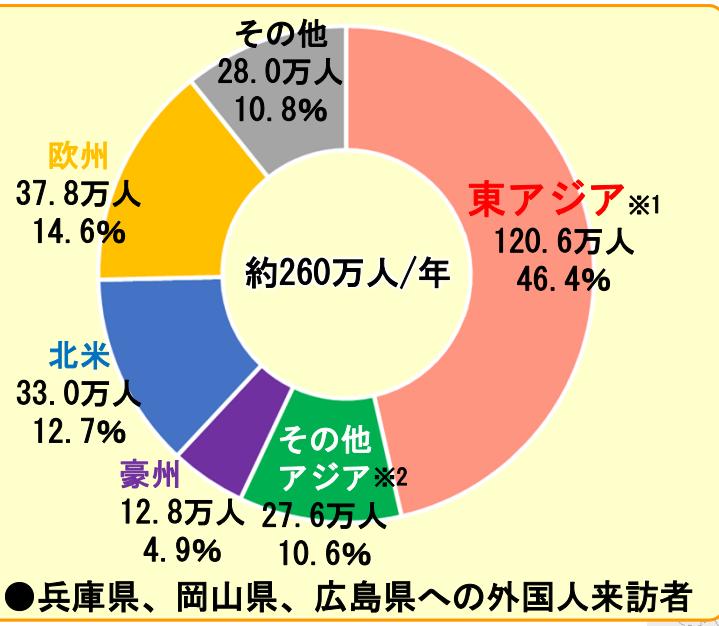


小型車の時間帯別入口交通量割合
(R6年度)

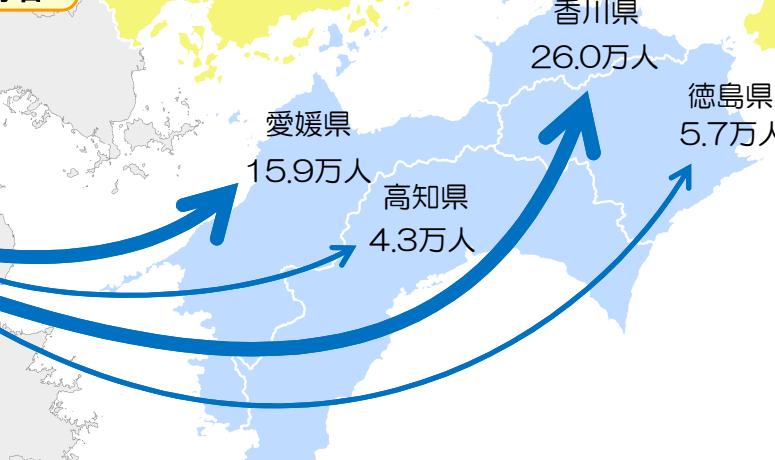
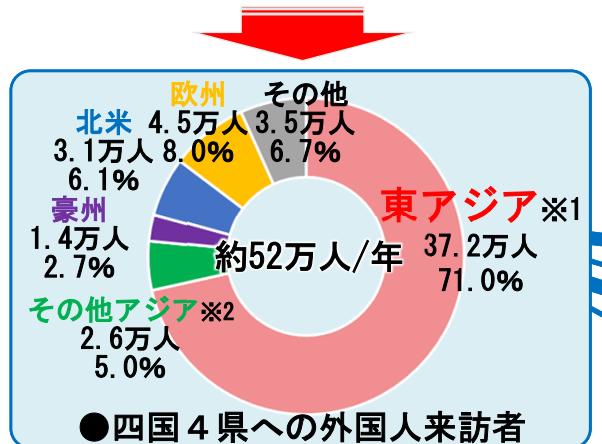


- 兵庫県、岡山県、広島県には、約260万人/年が訪れており、東アジアからの来訪者が約5割（約120万人）
- 四国4県には、約52万人/年の来訪者が訪れており、東アジアからの来訪者が約7割（約37万人）
- 東アジアからの来訪者をターゲットとし、本州→四国へ誘致することは、本四間の交流促進に有効

●外国人来訪者の状況（環瀬戸内海地域）



●兵庫県、岡山県、広島県への外国人来訪者

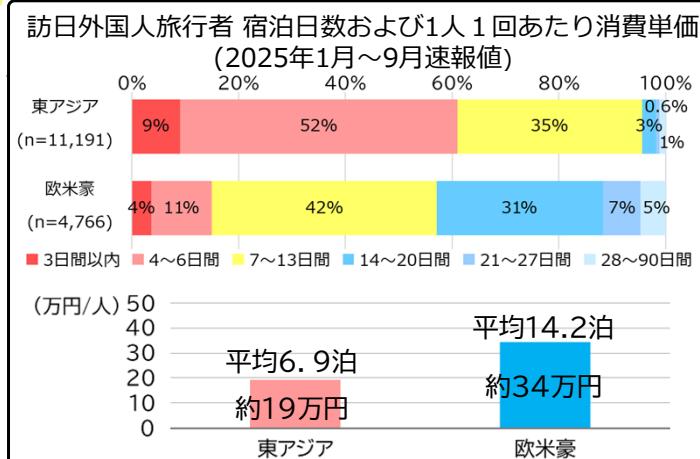


出典：(株)ナビタイムジャパン、インパウンドプロファイラーアンケート2024年度データを集計。

都道府県毎に来訪（同一1kmメッシュ内に30分以上滞在）した来訪者延べ人数を集計し、その国籍地域別構成比を表示

※1 東アジア：中国、韓国、台湾、香港の4か国で整理

※2 その他のアジア：タイ、シンガポール、インドネシア、フィリピン、ベトナム、マレーシア、インドの7か国



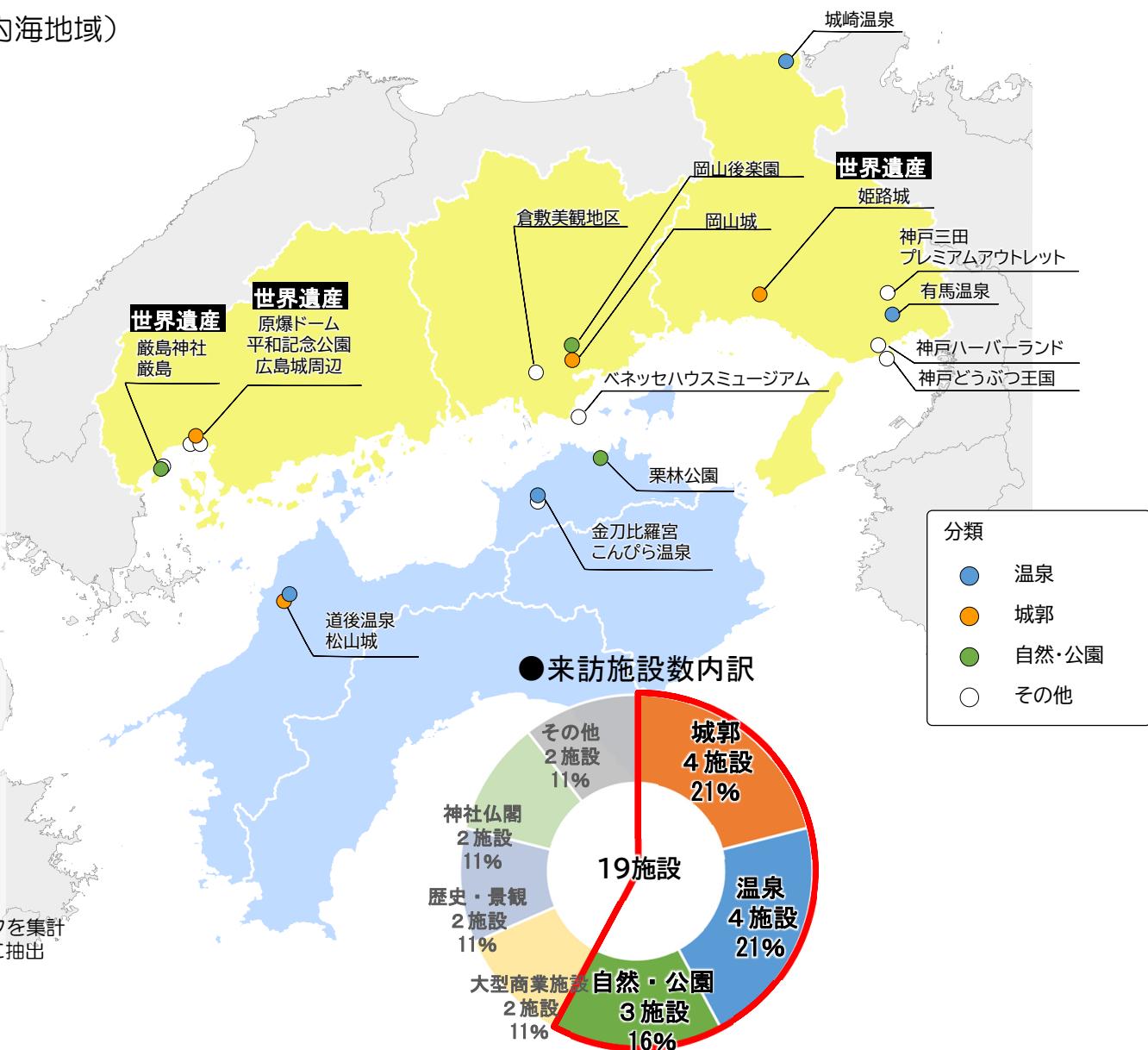
※東アジア：韓国、中国、台湾、香港
欧米豪：イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、スペイン、ロシア、米国、豪州

出典：観光庁インパウンド消費動向調査

- 東アジアから環瀬戸内海地域への来訪者は、世界遺産への来訪が上位にランクインしている
- 施設分類別では、「城郭」、「温泉」、「自然・公園」が特に上位を占めている

● 東アジアからの来訪者が訪れている施設（環瀬戸内海地域）

	県	市町	来訪施設	分類	訪日客数	本州/ 四国
1	兵庫県	神戸市	神戸ハーバーランド	大型商業施設	203,243	本州
2	広島県	広島市	原爆ドーム 平和記念公園	世界遺産 歴史・景観	151,240	本州
3	兵庫県	姫路市	姫路城	世界遺産 城郭	143,900	本州
4	岡山県	倉敷市	倉敷美観地区	歴史・景観	130,822	本州
5	広島県	廿日市市	厳島	自然・公園	119,700	本州
6	広島県	廿日市市	厳島神社	世界遺産 神社仏閣	119,700	本州
7	岡山県	岡山市	岡山城	城郭	76,210	本州
8	香川県	高松市	栗林公園	自然・公園	68,180	四国
9	兵庫県	神戸市	有馬温泉	温泉	66,740	本州
10	愛媛県	松山市	道後温泉	温泉	60,550	四国
11	岡山県	岡山市	岡山後楽園	自然・公園	53,140	本州
12	愛媛県	松山市	松山城	城郭	43,650	四国
13	香川県	琴平町	こんびら温泉	温泉	40,640	四国
14	香川県	琴平町	金刀比羅宮	神社仏閣	40,640	四国
15	兵庫県	神戸市	神戸三田プレミアムアウトレット	大型商業施設	36,850	本州
16	兵庫県	神戸市	神戸どうぶつ王国	動物園	36,520	本州
17	兵庫県	豊岡市	城崎温泉	温泉	29,230	本州
18	広島県	広島市	広島城周辺	城郭	22,440	本州
19	香川県	直島町	ベネッセハウス ミュージアム	美術館	21,830	四国

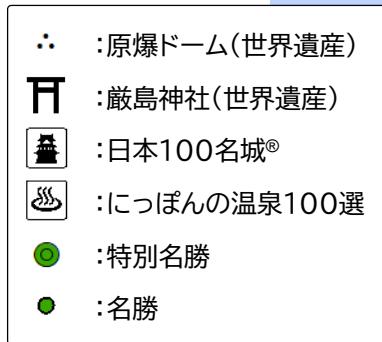


出典:(株)ナビタイムジャパン インバウンドプロファイルー2024年度データを集計
主な来訪先は、施設を含む1kmメッシュ来訪者が2万人/年以上を目安に抽出
乗換などで滞在が集中する主要駅周辺は抽出施設から除外している

○環瀬戸内海地域には、「城郭」、「温泉」、「自然・公園」が多数分布

○本州四国間の広域的な温泉巡り、お城巡りなどの周遊企画立案などは、本四間の交流促進に有効

●環瀬戸内海地域の主な「城郭」「温泉」「自然・公園」の分布と東アジアからの来訪者の状況



□:縁どりがピンク
2万人/年以上

□:縁どりが青
2万人/年未満

高速道路
国道
新幹線
JR在来線
その他

出典：地理院地図を加工して作成

旅行口コミサイトの
観光コンテンツの分析(中国)1~5位

順位	観光地	府県
1	原爆ドーム	広島県
2	広島平和記念資料館	広島県
3	広島平和記念公園	広島県
4	宮島	広島県
5	厳島神社	広島県

出典：関西・瀬戸内 インバウンド観光の広域周遊活性化に向けて
株式会社日本政策投資銀行 関西支店・中国支店・岡山事務所・四国支店

旅行口コミサイトの
観光コンテンツの分析(関西)1~5位

順位	観光地	府県
1	伏見稻荷大社	京都府
2	金閣寺	京都府
3	清水寺	京都府
4	東大寺	奈良県
5	姫路城	兵庫県

出典：関西・瀬戸内 インバウンド観光の広域周遊活性化に向けて
株式会社日本政策投資銀行 関西支店・中国支店・岡山事務所・四国支店

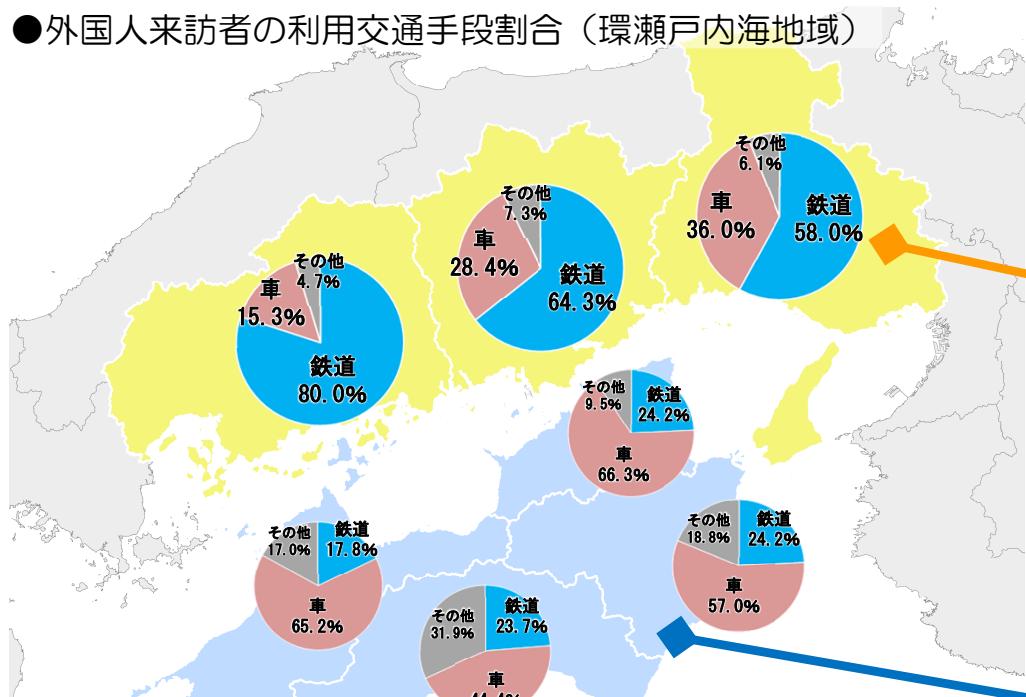


出典:(株)ナビタイムジャパン インバウンドプロファイルー2024年度データを集計
(施設を含む1kmメッシュ東アジア来訪者数)

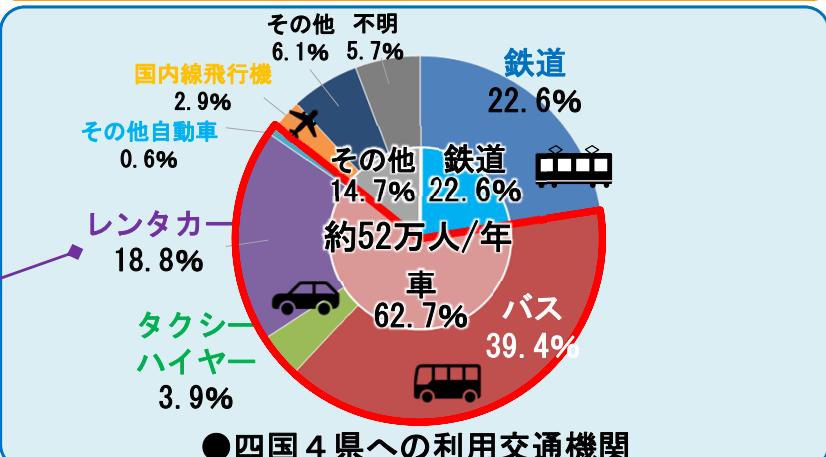
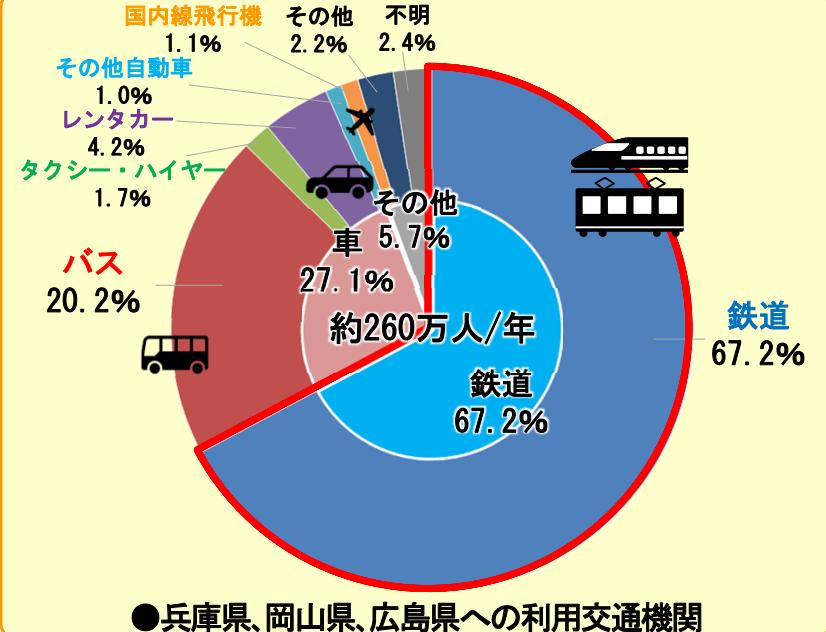
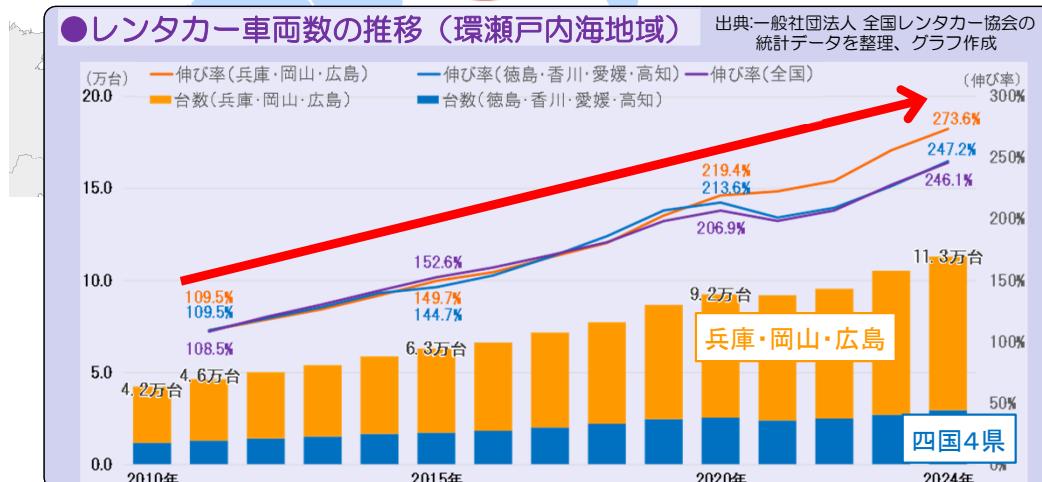
日本100名城(日本城郭協会の登録商標)、にっぽんの温泉100選((株)観光経済新聞社
主催ランキング)及び特別名勝・名勝(文化庁が指定する文化財の名勝地)をプロット

- 兵庫県、岡山県、広島県への外国人来訪者は、鉄道利用が約7割
- 四国4県への外国人来訪者は、鉄道利用割合が低く、バス、タクシー、レンタカーの利用割合が約6割
- 四国4県への誘客には、**移動自由度が高いレンタカーの活用促進**が有効

●外国人来訪者の利用交通手段割合（環瀬戸内海地域）

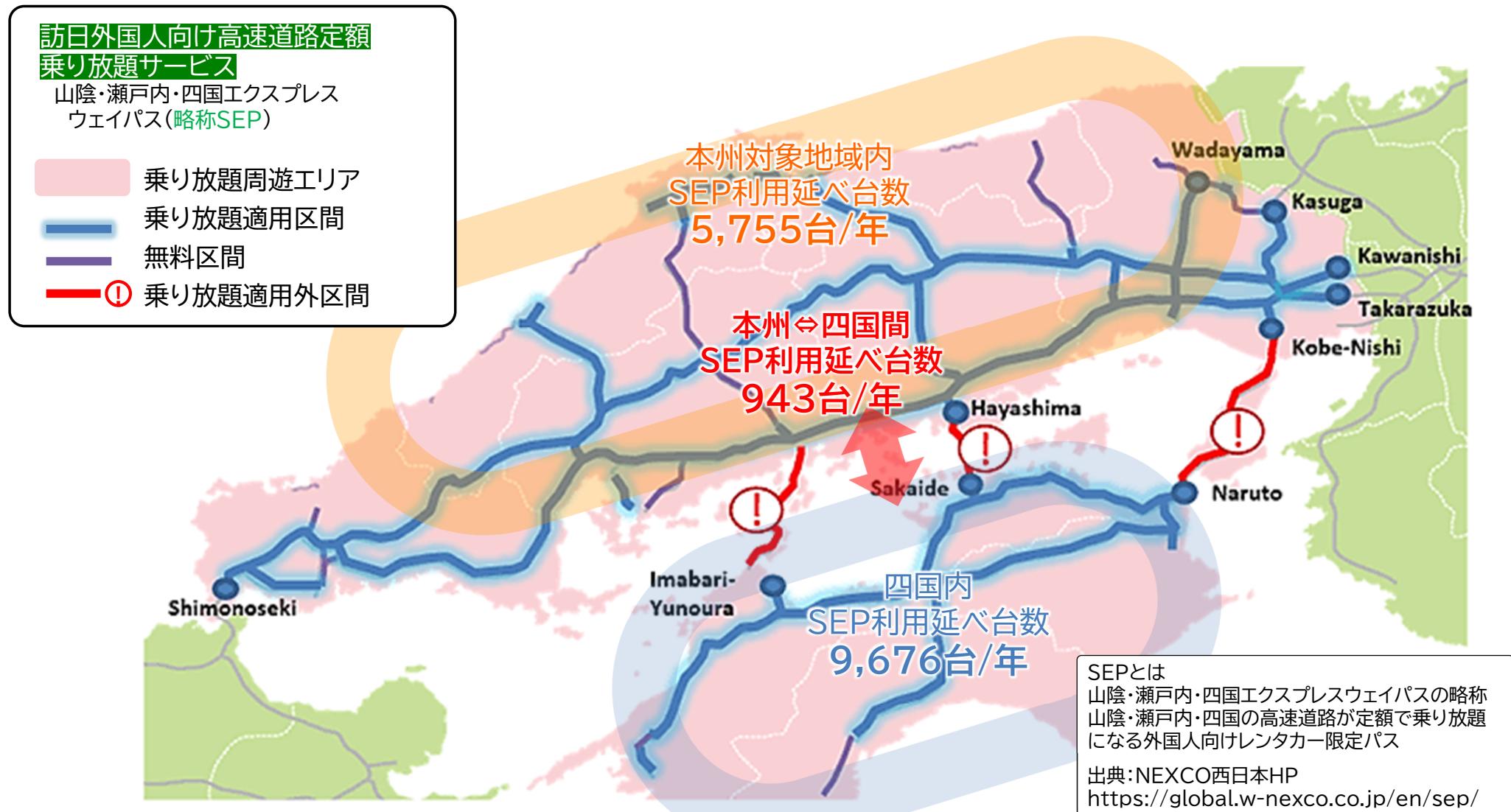


●レンタカー車両数の推移（環瀬戸内海地域）



出典:国土交通省 FF-Data (訪日客流動データ) 2023年分より集計
都道府県間流动表より、環瀬戸内海地域各県を目的とした訪問延べ人数及び、
利用交通手段の割合を表示

- 山陰・瀬戸内・四国エクスプレスウェイバス（略称SEP）のサービスを提供中
- 四国内利用が多く、年間延べ約1万台が利用、本州エリア内は約6千台、本州四国間移動の利用は約1千台



出典：SEP利用者データ(R5年度)より移動台数を集計

本州内、四国内延べ台数は県内交通、県間交通を合計して集計

延べ台数とは1トリップを1台としてカウント（兵庫発→岡山着、さらに岡山発→広島着の場合、2台としてカウント）

●東アジア（中国・韓国・台湾・香港）来訪者（環瀬戸内海地域）に着目したインタビュー調査結果のまとめ、気づきなど

東アジアからの来訪者の特徴は？

- ・20～40代の比較的若い年齢層が多め
- ・家族連れが多い
- ・滞在期間が短め（約1週間）
- ・訪日2回以上のリピーターが75%
- ・近傍の周遊ニーズが高い
- ・予算は少額傾向（平均42万円(交通費除く)）
- ・四国の空港から入出国（約5割）
- ・主な交通手段は 本州が鉄道 、四国は路線バス・レンタカー

東アジアからの来訪者向け検討の方向性

■若い年齢層の家族向けをターゲットに

■リピーターをターゲットに

■空港からのレンタカーサービスの充実化が有効
■鉄道とバス・レンタカーの連携強化も効果的

東アジアからの来訪者の来訪先評価

- ・移動 ,費用 ,食事 で評価が低め

■満足度向上、リピーター獲得のために
「移動利便性向上」「リーズナブル」「美味しい食事」がポイント

東アジアからの来訪者の情報源は？

- ・SNS(67%)
- ・日本政府観光局(JNTO)HP(22%)
- ・パンフレット(21%)
- ・環瀬戸協議会HP(12%)
- ・その他HP(32%)

(複数回答で割合が高いもの)

■SNS情報発信が最も効果的
■JNTOとの連携が有効
■施設間連携,パンフ設置有効
■環瀬戸協議会も一定認知

【インバウンドインタビュー調査】

調査日程：令和7年8月8日（金）、13日（水）、16日（土）の3日間

調査場所：兵庫県（姫路城）、岡山県（倉敷市美観地区）、広島県（宮島口）、香川県（栗林公園）、愛媛県（道後温泉）、徳島県（渦の道）、高知県（高知城）

広域周遊のターゲットのペルソナ

アジア



- ・訪日リピーター（3回以上程度）
- ・日本の歴史文化自然をもっと知りたい
- ・素晴らしい経験にはお金を惜しまない

- ・ゴールデンルートは訪問経験済
- ・何度も日本に来ることが可能

広域周遊の課題

広域の課題

- ・事業者は地域単位の意識もあり、横連携があまり進んでいない
- ・個々の地域や観光地の知名度・認知度が関西より瀬戸内の方が低い

地域の課題

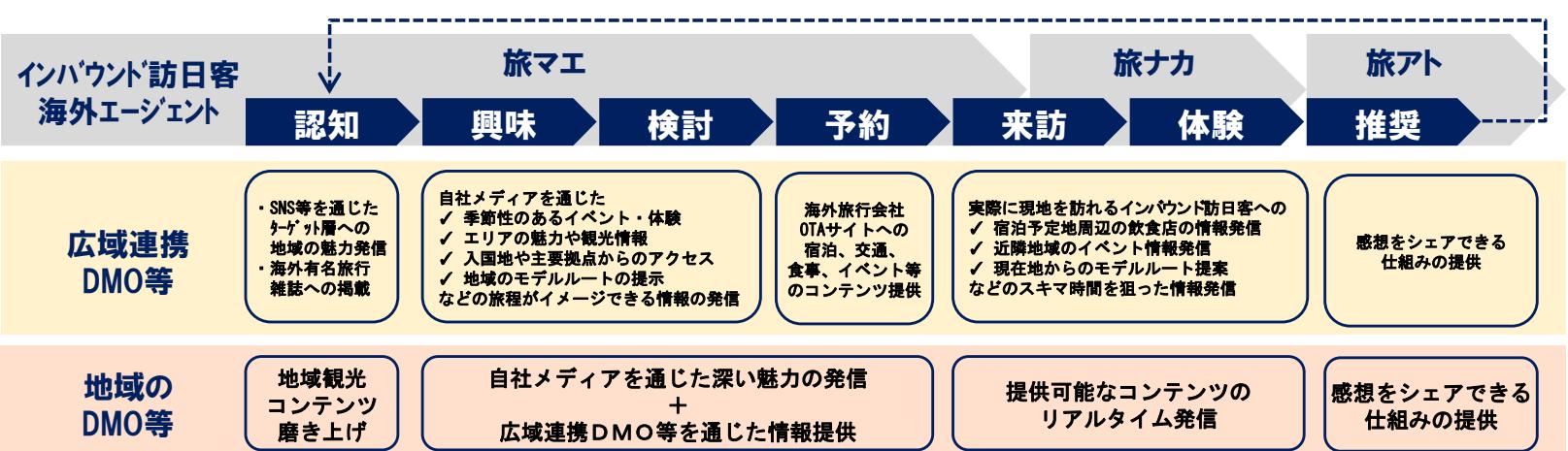
- ・地域としての情報発信力が弱くターゲット層に訴求できていない
- ・コンテンツが素晴らしい魅力を伝えられる人材が不足
- ・強みを伸ばすための観光商品造成ができていない地域が多い
- ・ターゲット層に敢えて来て貰える深いコンテンツが分からぬ

広域周遊の「歯車」を回すためのポイント・提言

■「インバウンド目線」に立ち、広域周遊をシームレスで実行できる体制の構築

■観光ガイド人材の育成
■DMOを中心としたプロモーション体制の整備
■地域のDMO等を中心とした観光コンテンツの磨き上げ

インバウンド訪日客に対する各段階の地域プロモーション体制の例



- 各団体との連携を深め、観光情報の質・量の更なる向上によるHPコンテンツの充実を図る
- 環瀬戸HPの認知度及びアクセス数の向上

- ①本四高速が発行する情報誌「瀬戸マーレ」との連携（年4回、H29年12月～）
 - ②組織内への情報共有やSNS等での外部発信（HP更新の都度、R5年4月～、「#かんせと」を付加）
 - ③HP検討会の定期開催（R5年10月～、延べ4回、次回は適宜開催予定）
 - ④協議会取組の記事化（年4回、R7年秋～）
 - ⑤複数県を巡るオリジナル周遊記事の新設（年4回、R6年冬～）
- ④⑤により、掲載記事の多様化及びHP更新頻度（1回/四半期→2回/四半期）の増加
- ⑥HPのスマホ化対応及び検索機能追加の改修（R7年10月運用開始） **NEW**



HPスマホ化対応及び検索機能追加の改修